

後付け施工も可能

多機能性
滑り止め舗装

NETIS登録

NIPPO

NIPPOが2015年に開発した多機能性滑り止め舗装「グリップサーフ」が、国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)に登録された。ワイヤメッシュを使い一般的な舗装である密粒度アスファルト舗装の表面に深さ9mm程度の溝を格子状につける。これにより滑り止め機能や視認性、凍結抑制機能などが高まり、安全性が向上する。既設舗装への後付け施工も可能という。今後は年間4000平方メートル程度の施工を目指す。



グリップサーフを施工した路面

る排水機能で滑り止め効果を発揮する。積雪前の降雪時には、路面に散布した凍結防止剤が溝に残留するため、凍結防止効果が持続する。カープ手前の減速箇所、横断歩道の停止線手前、山岳地の坂道、スリップ事故の多発地点などを対象に施工する。

新設の舗装にグリップサーフを設ける場合は、格子状にパターン化されたワイヤメッシュを敷きならしたアスファルト混合物上に設置し、その上を転圧機械が転圧して表面に格子状の溝をつける。後付けで施工する場合は路面ヒーターで舗装表面を加熱し、その上にワイヤメッシュを設置して新設と同様に溝を付ける。

ワイヤメッシュのテンプレートは車線幅員全面に溝をつける「全面型」、部分的に溝を付ける「部分型」の2種類がある。このうち部分型はパターン別にさらに2種類を選択できる。

舗装の滑り止めでは、滑り抵抗性を確保できるポー

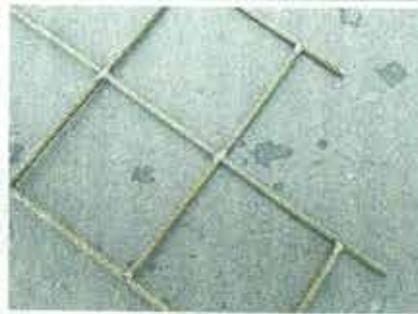
ラスアスファルト舗装を施工したり、凍結防止剤を路面に散布したりする方法が一般的。ただ、ポーラスアスファルト舗装は建設コストや耐久性の面で課題があった。凍結防止剤も風による飛散などの懸念があった。



NIPPOの
滑り止め舗装

NETISに登録 年間4000²m施工目指す

NIPPOの多機能滑り止め舗装「グリッブサーフ」が国土交通省のNETIS（新技術情報提供システム）に登録された。密粒度アスファルト舗装表面に格子状の溝を形成することで雨天時の滑り抵抗性や視認性の確保、凍結防止剤の路線外流出低減による凍結抑制機能を付加し、車両走行の安全性向上への寄与が期待できる。登録を機に営業を強化し、年間4000平方



テンプレート

を目標にさらなる普及を目指す。グリッブサーフは、排水効率を考慮したブロック柄がパターンされた特殊なワイヤメッシュのテンプレートを圧入してアスファルト舗装表面に小さな排水溝を設ける。適用箇所にはカーブ手前の減速部分や横断歩道の停止線手前、山岳地の坂道、郊外の道路、スリップ事故の多発地点などを想定している。テンプレートには車線の必

要な部分だけに施工する部分型2種（バルタン・矢がすり）と車線幅員内全面に施工する全面型1種（ラティス）の3種類があり、新設・既設いずれの舗装にも適用することができる。部分型は配置パターンを自由に設計でき、全面型と比較して1平方メートルあたりの施工費が安価であるため、溝の設置延長を伸ばし滑り止め効果を長く確保させたい場合に適しており、全面型は確実な車線外への排水機能によって滑り止め効果を発揮させた個所に適している。

(日刊建設産業新聞社 掲載許諾済み)



施工事例 (全面型)

とから全国的に普及している。しかし、建設コストおよび長期的な耐久性の観点から、都市部の重交通路線への適用が主で、地方の生活道路や山岳道路では適用されることは少な

NETIS登録、拡販へ

すべり止め舗装グリップサーフ 表面に溝を設け機能付加

NIPPO

NIPPOが開発した多機能すべり止め舗装「グリップサーフ」が国土交通省のNETIS(新技術情報提供システム)に登録された。新設または既設のアスファルト舗装表面に溝を設けることで、雨天時におけるすべり抵抗性の確保と、冬期における凍結防止剤の路外流出を低減す

る。カーブ手前の減速部分、山岳地の坂道や郊外の道路、スリップ事故の多発地点などへの適用を図り、年間4000平方メートルの販売を目指す。雨天時のすべり抵抗性確保や水はねによる視界不良の低減などを目的に適用されるポーラスアスファルト舗装は、車両の走行安全性が向上するこ

と、安価ですべり止め効果のある舗装が求められていた。また、冬期の凍結路面対策として凍結防止剤が散布されるが、凍結防止剤が路面に溜まりにくく、風や通行車両により路外への散乱や飛散ロストとなり、コストの増大や周辺環境への影響が懸

念されている。同社が開発している「グリップサーフ」は、一般的に用いられている密粒度アスファルト舗装での雨天時におけるすべり抵抗性の確保と、冬期における凍結防止剤の路外流出を低減する多機能すべり止め舗装。新設(舗装同時施工)、既設(後付け施工)のどちらでも適用ができる。

表面の排水効率を考慮したブロック柄がパターン化された特殊なワイヤメッシュ(テンプレート)を用いて、アスファルト舗装表面に小さな排水溝を設ける。これにより、雨天時や冬期における車両走行の安全性向上が図られる。テンプレートは、車線の必要な部分のみに施工する部分型が2種類(バールタン、矢がすり)と、車線幅員内全面を施工する全面型が1種類(ラチェイス)の計3種類ある。全面型は、確実な車線外への排水機能によっ

て、すべり止め効果を発揮させたい箇所に適しており、部分型は、配置バールタンを自由に設計でき、全面型と比較し1平方メートルあたりの施工費が安価であることから、溝の設置延長を延ばしすべり止め効果を長く確保させたい場合に適している。